

ねがたびと

題字：降矢玄龍先生

第55号

発行日 令和6年12月9日

発行者 根形交流センター

(根形公民館)

袖ヶ浦市下新田 1277

☎0438-62-6161

令和6年度 第38回 根形公民館まつり

地域の皆様 多くの来観有難うございました！

『つくろう そだてよう 心かよう 根形文化』をテーマに、11月2日と3日、「令和6年度第38回根形公民館まつり」を開催しました。根形公民館の登録サークル、利用者、地域の皆様、子どもたち等の日頃の学習成果を発表する機会を作るとともに、各種の催しをとおして、地域の交流の場とするべく開催しました。

初日はあいにくの雨でしたが、来観者・発表者・スタッフを合わせた2日間の合計人数は2,015名と多くの方に来観いただきました。ありがとうございました。

なお、このサークル等の参加団体は、以下のとおりです。

展示部門は25団体。内訳は、陶芸11（陶・彩の会・亜々土・土喜・土楽・形・陶楽・椿・窯・四季・陶芸教室）、絵画7（悠・快心・イーゼル・パレット・成人絵画教室・花まる絵画教室・子ども絵画教室）、書道2（根形書友会・望陀書友会）、その他5（根形保育所・根形小学校・根形中学校・和風・篠笛の会）です。

発表部門は10団体。タンポポ・ジュニアお箏教室もみじ・篠笛の会・根形小合唱部・上総シニアアンサンブル・DSCシルエット・NESUPOフラダンスレアレア・袖ヶ浦市ジュニアオーケストラ・吟詠雲風会・樺若小勸様です。

体験部門は10種類。スポーツ吹き矢・インディアカ・カントリーダンス・インドアローンボウルズ・昔遊び・テニス・親子陶芸・油絵体験・石膏手形と木工体験・和風作りです。その他にも、消防車両展示・農産物等即売・本のリサイクル市・陶芸作品即売・焼きそば販売・パン販売・豚汁販売・飲み物販売・揚げ物等販売・クッキー等の販売と、全部で55の団体に参加いただきました。素晴らしい作品の出展や発表をはじめ、多くの方にご協力いただき、誠にありがとうございました。



第38回公民館まつりの続き(フォトメモリアル)



根形小合唱部発表



油絵体験



日本舞踊



根形中作品展示



合奏発表



木工体験

根形小学校で防災学習会を実施しました！

9月3日（火）午前、根形小学校全児童を対象に、小学校と根形公民館共催による防災学習会を開催しました。地震災害を想定し、実際に地震が起こった時の避難の仕方や小学校の体育館が避難所となった時の様子等を学ぶことを通じて、防災に対する意識を高めることを目的として実施しました。

講話では、市役所防災安全課の職員が講師となり、自然災害の恐ろしさやその対策、避難方法、さらに袖ヶ浦市の災害リスク・避難所等についてリモートで行いました。児童たちは各教室で真剣なまなざしで視聴していました。

体育館での模擬避難所見学は1年生から3年生を対象に実施し、防災安全課の職員が講師となり、避難所内に設置するワンタッチパーテーション、簡易ファミリールーム、段ボールベッドなどを使用して、プライバシー保護や感染症対策、段ボールベッドの寝心地を体感するとともに、小学校の災害用備蓄倉庫に備えられている備蓄品（かまど、チェンソー、発電機、鍋、非常食、飲料水、保健用品など）を確認しました。



令和6年度「明るい家庭づくりと 青少年の非行防止」標語審査結果

「根っ子の会」では、未来を担う青少年の健全育成を推進するため、小中学生から「明るい家庭づくりと青少年の非行防止」標語を募集しました。

各クラスから選出された作品1点を優秀作品とするとともに、その中から小中学校それぞれ1作品を最優秀賞として選び、根形地区に啓発看板として掲示しています。

今年度の最優秀賞は、次の2点です。

◎小学校最優秀賞（1年生）

「かぞくはね いつでもぼくの おうえんだん」

◎中学校最優秀賞（1年生）

「スマホより 大事にしよう 家族の輪」

予告！



3/15～3/23

(土) (日)

サークル作品展 只今準備中

毎年恒例の「根形公民館サークル作品展」。今年で19回目となる作品展開催に向けて、現在準備を進めています。

日頃、根形公民館で活動している絵画、書道、陶芸の各サークルによる、一年間の創作活動の集大成となる作品展です。ぜひ、お出かけの予定に入れておいてください。



66 根形公民館 主催講座 紹介



『根形ニコニコ教室』 みんな元気に活動しています！

「根形ニコニコ教室」は、根形地区にお住まいの60歳以上の方を対象とした教室です。教養・健康・軽スポーツなどの学習・交流活動を通じて、一人ひとりの生きがいを促進し、仲間づくりを行っています。ほぼ月に1回のペースで開催し、教室生同士の会話もはずんで認知症予防にもつながっています。

今年度は、5月29日（水）のレクリエーションスポーツ（ボッチャ体験）を皮切りに、6月26日（水）の消費者教室（詐欺や悪徳商法の被害に遭わないために）、7月27日（土）のねがたファミリーコンサート、8月27日（火）の歌声教室、9月18日（水）のフレイル予防講座（フレイルとは、加齢とともに心身の活力が低下し、健康障害を起こしやすくなった状態のこと）、10月16日（水）の移動教室（帝釈天、寅さん記念館、山田洋次ミュージアム）、11月2日（土）の公民館まつりへの参加と、7回の教室を実施しました。残る予定としては、12月に冬の健康管理、1月に映画鑑賞、2月にお楽しみ演芸交流会です。根形ニコニコ教室に興味・関心のある方は、根形交流センター（根形公民館）にお問い合わせください。なお、根形交流センターまでの交通手段のない方のために、市バスによる送迎も行っています。



袖ヶ浦生き物探訪 その③ カモの恋模様

郷土博物館 水流^{つる} 拓馬

冬が深まるにつれて、袖ヶ浦公園は賑やかになります。遠くユーラシア大陸北部から、カモの仲間が大勢上池に渡ってくるからです。

袖ヶ浦公園では10種類ほどのカモが見られますが、ほとんどが秋に海外から飛来する冬鳥です。彼らは-20℃を下回る極寒となる大陸の冬を避け、それより暖かい日本で冬を越しながらつがいとなり、夏が訪れる前に涼しい大陸へ戻って繁殖します。つまり人間と違ってクリスマスもバレンタインデーもありますが、多くのカモたちにとって冬は恋の季節なのです。そのためのコーディネートも完璧で、オスは繁殖羽と呼ばれる色鮮やかな羽毛を身にまとい、日々メスへのアピールとライバルとの争いに明け暮れています。より色鮮やかで強いオスが勝利する、一見のんびりしているように見えるカモにも過酷な定めがあるのです。



ハシビロガモのつがい。オス(奥側)は深緑色の頭が美しい。メス(手前)は茶色く地味

ここまで真冬のカモたちの暮らしについて簡単に紹介してきましたが、恋のバトルの準備は、渡ってきて間もなくスタートしています。袖ヶ浦公園によく訪れる方はお気づき

かもしれませんが、10月ごろのカモは種類も性別も関係なく、皆地味な色です。ここから冬を迎えるまでに繁殖羽へ換羽して、メスへの求愛を始めます。この姿はよく目立つ代わりに、メスだけでなく外敵にも見つかりやすくなるので、オスの恋はまさに命がけです(人間でよかった…)。一方、繁殖羽になる前の目立たない地味な羽をエクリップス(羽)といいます。エクリップスとは英語で日食を意味する言葉で、色鮮やかな繁殖羽を太陽に見立てているのでしょうか。センスを感じるネーミングです。



ハシビロガモのエクリップス

ちなみに、特定の季節にオスだけ派手になる鳥は、カモの仲間以外ほとんどいません。日本で越冬するカモは、例えるなら集団でお見合い旅行をしているような状態で、夏の短いユーラシア大陸北部ですぐに子育てを行うために、なるべく早くつがいを作る必要があります。オスとメスが一目で見分けられるということは、オスにとってはメスにアピールしやすく、メスにとっては気になるオスを見つけやすいということになるので、つがいの早期成立に役立つことでしょう。